

高等学校 芸術（書道）

解答についての注意点

- 1 解答用紙は、マーク式解答用紙と記述式解答用紙の2種類があります。
- 2 大問 **1**、大問 **2** については、マーク式解答用紙に、大問 **3**、大問 **4** については、記述式解答用紙に記入してください。
- 3 解答用紙が配付されたら、まずマーク式解答用紙に受験番号等を記入し、受験番号に対応する数字を、鉛筆で黒くぬりつぶしてください。
記述式解答用紙は、全ての用紙の上部に受験番号のみを記入してください。
- 4 大問 **1**、大問 **2** の解答は、選択肢のうちから、**問題で指示された解答番号の欄**にある数字のうち一つを黒くぬりつぶしてください。
例えば、「解答番号は 」と表示のある問題に対して、「**3**」と解答する場合は、解答番号 の欄に並んでいる ① ② ③ ④ ⑤ の中の ③ を黒くぬりつぶしてください。
- 5 間違っただけでぬりつぶしたときは、消しゴムできれいに消してください。二つ以上ぬりつぶされている場合は、その解答は無効となります。
- 6 その他、係員が注意したことをよく守ってください。

指示があるまで中をあけてはいけません。

1 「高等学校学習指導要領（平成30年3月告示）第2章 第7節 芸術 第2款 各科目 第10書道I」について、次の(1)～(4)の問いに答えよ。

(1) 次の□は、書道I「1 目標」からの抜粋である。空欄(○)～(○)に入る、適切な語句の組合せを1～5から一つ選べ。解答番号は□

第2款 各科目 第10 書道I

1 目標

書道の(○)～(○)を通して、書に関する(○)～(○)を働かせ、生活や社会の中の文字や書、(○)～(○)と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを旨す。

- | | | | |
|---|---------|----------|------------|
| 1 | ① 幅広い活動 | ② 見方・考え方 | ③ 書の伝統と文化 |
| 2 | ① 幅広い活動 | ② 多様な感性 | ③ 書の伝統と文化 |
| 3 | ① 幅広い表現 | ② 見方・考え方 | ③ 多様な表現作品 |
| 4 | ① 幅広い表現 | ② 多様な感性 | ③ 歴史や文化財など |
| 5 | ① 多様な活動 | ② 見方・考え方 | ③ 歴史や文化財など |

(2) 次の□は、書道I「2 内容 A 表現 (1) 漢字仮名交じりの書」からの抜粋である。空欄(○)～(○)に入る、適切な語句の組合せを1～5から一つ選べ。

解答番号は□

第2款 各科目 第10 書道I

2 内容 A 表現

(1) 漢字仮名交じりの書

漢字仮名交じりの書に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア(○)～(○)を得たり生かしたりしながら、次の(ア)から(ウ)までについて構想し工夫すること。

- (ア) 漢字と仮名の調和した字形、(○)～(○)、全体の構成
(イ) 目的や用途に即した表現形式、意図に基づいた表現
(ウ) 名筆を生かした表現や(○)～(○)表現

- | | | | |
|---|---------|----------|-----------|
| 1 | ① 表現の能力 | ② 筆勢 | ③ 古典に基づいた |
| 2 | ① 知識や技能 | ② 文字の大きさ | ③ 古典に基づいた |
| 3 | ① 創作の能力 | ② 用筆・運筆 | ③ 現代に生きる |
| 4 | ① 知識や技能 | ② 文字の大きさ | ③ 現代に生きる |
| 5 | ① 表現の能力 | ② 用筆・運筆 | ③ 古典に基づいた |

- (3) 次の□は、書道I「2 内容 A 表現 (3) 仮名の書」からの抜粋である。空欄(①)、(②)に入る、適切な語句の組合せを1～5から一つ選べ。解答番号は□3

第2款 各科目 第10 書道I

2 内容 A 表現

(3) 仮名の書

仮名の書に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

イ 次の(ア)及び(イ)について理解すること。

- (ア) (①)の特徴と表現効果との関わり
(イ) (②)と用筆・運筆との関わり

- 1 ① 用具・用材 ② 字形や構成
2 ① 文房四宝 ② 線質や書風
3 ① 用具・用材 ② 線質や書風
4 ① 文房四宝 ② 全体の構成
5 ① 古筆 ② 字形や構成

- (4) 次の□は、書道I「2 内容 B 鑑賞 (1) 鑑賞」からの抜粋である。空欄(①)、(②)に入る、適切な語句の組合せを1～5から一つ選べ。解答番号は□4

第2款 各科目 第10 書道I

2 内容 B 鑑賞

(1) 鑑賞

鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

イ 次の(ア)から(エ)までについて理解すること。

- (ア) 線質、字形、構成等の要素と表現効果や(①)との関わり
(イ) 日本及び中国等の文字と書の伝統と文化
(ウ) 漢字の(②)、仮名の成立等
(エ) 書の伝統的な鑑賞の方法や形態

- 1 ① 書の効用 ② 成立の歴史
2 ① 風趣 ② 書体の変遷
3 ① 書風 ② 成立の時代背景
4 ① 書風 ② 書体の変遷
5 ① 書の効用 ② 成立の時代背景

2

次の図版A～Hについて、(1)～(5)の問いに答えよ。

図版A

著作権保護の観点により、
本作品を掲載いたしません。
出典：書Ⅱ 高木聖雨他14名著
光村図書 表紙裏 右下の図版

図版B

著作権保護の観点により、
本作品を掲載いたしません。
出典：書Ⅰ 高木聖雨他14名著
光村図書 45ページ 2つめの図版

図版C

著作権保護の観点により、
本作品を掲載いたしません。
出典：書道Ⅱ 尾川明穂他5名著
教育出版
31ページー行目から3行目まで

図版D

著作権保護の観点により、
本作品を掲載いたしません。
出典：書Ⅱ 高木聖雨他14名著
光村図書 25ページ

図版E

著作権保護の観点により、
本作品を掲載いたしません。
出典：書道Ⅱ 尾川明穂他5名著
教育出版 46ページー行目から3行目まで

図版 F

著作権保護の観点により、
 本作品を掲載いたしません。
 出典：新編 書道 I 加藤東陽他 6 名著
 教育出版 84 ページ 下の図版

図版 G

著作権保護の観点により、
 本作品を掲載いたしません。
 出典：書 III 関正人他 13 名
 教育図書
 44 ページ 上の図版 1 行目から 7 行目まで

図版 H

著作権保護の観点により、本作品を掲載いたしません。
 出典：書 II 高木聖雨他 14 名著
 光村図書 22 ページ 2 行目から 4 行目まで

(1) 図版 A ～ H を古いものから順に並べたとき、三番めと五番めになる組合せはどれか。 1 ～ 5 から一つ選べ。解答番号は

- | | | | | | |
|---|-----|---|---|-----|---|
| 1 | 三番め | D | ・ | 五番め | G |
| 2 | 三番め | G | ・ | 五番め | A |
| 3 | 三番め | A | ・ | 五番め | B |
| 4 | 三番め | E | ・ | 五番め | C |
| 5 | 三番め | C | ・ | 五番め | F |

- (2) 図版Aの筆者名を1～5から一つ選べ。解答番号は
- 1 陸機 2 王羲之 3 蔡襄 4 空海 5 藤原行成

- (3) 次の①～⑤について、図版Aに関する説明として正しいものはどれか。正しいもののみをすべて挙げているものはどれか。1～5から一つ選べ。解答番号は
- ① 筆者は三跡（三蹟）の一人である。
② 真跡は現存せず、この図版は双鉤顛墨による模本である。
③ この作品は最澄に宛てた消息三通のうちの一つである。
④ 筆者の尺牘の断簡である。
⑤ この書風から、唐の顔真卿の書をよく学んだことがわかる。

- 1 ②④
2 ①②⑤
3 ①④
4 ③④⑤
5 ①②③⑤

- (4) 図版Bの筆者名を1～5から一つ選べ。解答番号は
- 1 王羲之 2 孫過庭 3 空海 4 藤原佐理 5 藤原行成

- (5) 図版Bに関する説明として正しいものはどれか。1～5から一つ選べ。解答番号は
- 1 筆者は三筆の一人である。
2 真跡は現存せず、この図版は双鉤顛墨による模本である。
3 この筆者は世尊寺流の祖である。
4 この作品は、筆者の書に対する考えを述べた書論である。
5 この作品は、現存する懐紙で最古のものである。

- (6) 図版Cの筆者名を1～5から一つ選べ。解答番号は
- 1 懷素 2 黄庭堅 3 米芾 4 傅山 5 藤原行成

- (7) 図版Cの作品名を1～5から一つ選べ。解答番号は
- 1 伏波神祠詩卷 2 白氏詩卷 3 草書五言律詩 4 李太白憶旧遊詩卷
5 李太子帖

(8) 図版Dの作品名を1～5から一つ選べ。解答番号は

- 1 開通褒斜道刻石
- 2 張遷碑
- 3 石門頌
- 4 萊子侯刻石
- 5 論經書詩

(9) 図版Eの作品名を1～5から一つ選べ。解答番号は

- 1 楊大眼造像記
- 2 孫秋生造像記
- 3 賀蘭汗造像記
- 4 魏靈藏造像記
- 5 鄭長猷造像記

(10) 図版Fの筆者とは違う時期に活躍した人物名を1～5から一つ選べ。解答番号は

- 1 卷菱湖
- 2 松花堂昭乗
- 3 仙厓
- 4 市河米庵
- 5 貫名松翁

(11) 図版Gの作品名を1～5から一つ選べ。解答番号は

- 1 藍紙本万葉集
- 2 一条撰政集
- 3 升色紙
- 4 小島切
- 5 本阿弥切

(12) 図版Gの伝承筆者を1～5から一つ選べ。解答番号は

- 1 伝 寂蓮
- 2 伝 藤原行成
- 3 伝 西行
- 4 伝 藤原公任
- 5 伝 小野道風

(13) 図版Gに関する説明として正しいものはどれか。1～5から一つ選べ。解答番号は

- 1 光悦が愛蔵していたためこの名がつけられている。
- 2 この作品は、熊野懐紙の一部である。
- 3 淡藍の漉紙に書かれている。
- 4 料紙四枚を重ねて二つ折りにし、折り重ねたものを絹糸で綴じた大和綴の冊子本である。
- 5 清原深養父の家集を書いたものである。

(14) 古筆にはそれぞれの名称があるが、名称とその名称の由来の組合せを示した1～5について、誤っているものはどれか。1～5から一つ選べ。解答番号は

- 1 関戸本古今集…所蔵者によるもの
- 2 本能寺切…保管の場所によるもの
- 3 元永本古今集…書写年代によるもの
- 4 筋切…料紙の特徴によるもの
- 5 針切…装丁の特徴によるもの

(15) 次の図版Hに関する説明で、①～⑤、⑥～⑩、⑪～⑮に当てはまる語句の正しい組合せはそれぞれどれか。1～5から一つずつ選べ。

解答番号は、①～⑤は

19

⑥～⑩は

20

⑪～⑮は

21

(①)の(②)は天下を統一したのち巡幸して、各地に自らの功績を讃えて碑を建てた。図版Hのほか、(③)、(④)など六か所に刻石を建てたが、原石が現存するのは図版Hと(④)の刻石のみである。図版Hの原石は幾多の災難に遭い、(⑤)字を残すのみである。

図版Hはこの時代に統一された文字で刻されており、(⑥)の筆によるものと伝えられている。篆書を大別すると、(⑦)と(⑧)に分けられるが、図版Hは(⑦)の代表作と言える。図版Hの傍線⑧、⑨の文字を楷書にするとそれぞれ(⑨)、(⑩)である。

中国最古の字書である『(⑪)』は、九三三三字を(⑦)で示し、五四〇の部首に分類し、字形、意義、音声を説明している。漢字の構造や造字について、「指事、象形、形声、会意、(⑫)、仮借」に分類してある。これを(⑬)と呼ぶ。『(⑪)』では、図版H中の①の文字は、音を表す「今(キム)」と、意味を表す「ハ」・「土」が組み合わせられて成り立った(⑭)文字に分類されており、②の文字は(⑮)文字に分類されている。

①～⑤

解答番号は

19

- | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|
| 1 | ① | 漢 | ② | 武帝 | ③ | 雲峰山 | ④ | 嶧山 | ⑤ | 十五 |
| 2 | ① | 秦 | ② | 始皇帝 | ③ | 会稽 | ④ | 雲峰山 | ⑤ | 五十 |
| 3 | ① | 秦 | ② | 始皇帝 | ③ | 琅邪台 | ④ | 嶧山 | ⑤ | 二十六 |
| 4 | ① | 秦 | ② | 始皇帝 | ③ | 嶧山 | ④ | 琅邪台 | ⑤ | 十 |
| 5 | ① | 漢 | ② | 武帝 | ③ | 琅邪台 | ④ | 会稽 | ⑤ | 三十三 |

⑥～⑩

解答番号は

20

- | | | | | | | | | | | |
|---|---|----|---|----|---|----|---|---|---|---|
| 1 | ⑥ | 李柏 | ⑦ | 大篆 | ⑧ | 小篆 | ⑨ | 見 | ⑩ | 効 |
| 2 | ⑥ | 李斯 | ⑦ | 小篆 | ⑧ | 大篆 | ⑨ | 具 | ⑩ | 刻 |
| 3 | ⑥ | 李斯 | ⑦ | 大篆 | ⑧ | 秦篆 | ⑨ | 具 | ⑩ | 勸 |
| 4 | ⑥ | 李柏 | ⑦ | 金文 | ⑧ | 小篆 | ⑨ | 貝 | ⑩ | 刻 |
| 5 | ⑥ | 李斯 | ⑦ | 小篆 | ⑧ | 大篆 | ⑨ | 見 | ⑩ | 効 |

⑪～⑮

解答番号は

21

- | | | | | | | | | | | |
|---|---|------|---|----|---|-----|---|----|---|----|
| 1 | ⑪ | 字通 | ⑫ | 転意 | ⑬ | 説文 | ⑭ | 指事 | ⑮ | 会意 |
| 2 | ⑪ | 説文解字 | ⑫ | 転注 | ⑬ | 六書 | ⑭ | 仮借 | ⑮ | 象形 |
| 3 | ⑪ | 字源 | ⑫ | 転注 | ⑬ | 六書 | ⑭ | 形声 | ⑮ | 象形 |
| 4 | ⑪ | 字源 | ⑫ | 転意 | ⑬ | 構造法 | ⑭ | 仮借 | ⑮ | 指事 |
| 5 | ⑪ | 説文解字 | ⑫ | 転注 | ⑬ | 六書 | ⑭ | 形声 | ⑮ | 会意 |

3

次の(1)～(7)の問いに答えよ。

(1) 次の①～③に示す文字を草書で書け。

① 行 ② 無 ③ 当

(2) 次の①～③のひらがなの字源を楷書で書け。

① つ ② え ③ さ

(3) 次の図版について、あとの①②の問いに答えよ。

著作権保護の観点により、本作品を掲載いたしません。

出典：新編 書道Ⅰ 加藤東陽他6名著
教育出版 100ページ4行目から5行目まで

① 図版の全文を、小学校国語科書写で表記する平仮名で書け。併せて、変体仮名についてはその平仮名の下に（ ）をつけて原字を楷書で書け。

② 図版の作品名と伝承筆者名を漢字で書け。

(4) 次の図版について、あとの①②の問いに答えよ。

著作権保護の観点により、本作品を掲載いたしません。

出典：書Ⅱ 高木聖雨他12名著
光村図書 25ページ

① 図版の一行めの十文字を楷書で書け。

② 図版の作品名と筆者名を漢字で書け。

- (5) 書道の授業で生徒に説明することを想定し、次の①～③についての説明を簡潔に記せ。
- ① 腕法
 - ② 変体仮名
 - ③ 顔真卿「三稿」

(6) 次の図版A～Dについて、作品名、筆者名、時代を漢字で書け。ただし、図版Dは筆者不明のため、書かなくてよい。

図版A

著作権保護の観点により、本作品を掲載いたしません。

出典：書道Ⅱ 尾川明穂他5名著
教育出版 38ページ3行目から4行目まで

図版B

著作権保護の観点により、本作品を掲載いたしません。

出典：書道Ⅱ 尾川明穂他5名著
教育出版 49ページ 左の図版

図版C

著作権保護の観点により、
本作品を掲載いたしません。

出典：書道Ⅱ 石飛博光他19名著
東京書籍 50ページ2行目から3行目まで

図版D

著作権保護の観点により、本作品を掲載いたしません。

出典：書Ⅱ 澤田雅弘他11名
教育図書 36ページ 左の図版

(7) 次の文は清代の書道史について説明したものである。傍線部①～⑩について、正しい場合は○、誤っている場合は×を記せ。

清代の書流を二つに大別した呼称として、「帖学派」と「碑学派」がある。帖学派は『①翰墨城』など、二王や蘇軾、米芾、趙孟頫、董其昌などの書を集帖した②法帖を根拠に学ぶ書家をさす。帖学派には、劉墉、③吳熙載、④王文治などの大家がいる。

それに対して、漢魏六朝の古碑に着眼した金石学の研究にともない、碑版を学ぶことによって研鑽する、⑤鄧石如などの碑学派の人たちが隆興してきた。その後、⑥趙之謙、徐三庚などが続々と登場した。また、⑦阮元の『南北書派論』や⑧康有為の『芸舟双楫』などにより考証が進められ、⑨包世臣は『広芸舟双楫』で、従来の法帖中心の学習法「帖学」を否定し、碑版の拓によって学ぶべきことを主張した「碑学」を推している。その流れをくむ⑩吳昌碩は一八八〇年に碑版法帖を一万余点携えて来日した。

「高等学校学習指導要領（平成30年3月告示） 第2章 第7節 芸術 第2款 各科目 第10書道I 2 内容 A 表現 (2) 漢字の書」及び「同 B 鑑賞 (1) 鑑賞」の学習内容に基づき、次の図版A～Cを用いて漢字の書の授業を行うとき、次の(1)～(3)の問いに答えよ。

図版A

著作権保護の観点により、本作品を掲載いたしません。

出典…書道I 尾川明穂他5名著
教育出版 18ページ4行目1字目から4字目まで

図版B

著作権保護の観点により、本作品を掲載いたしません。

出典…書I 高木聖雨他14名著
光村図書 31ページ2行目4字目から7字目まで

図版C

著作権保護の観点により、本作品を掲載いたしません。

出典…新編 書道I 加藤東陽他6名著
教育出版 32ページ3行目4字目から7字目まで

(1) 図版A～Cについて、作品名、筆者名と、作品や筆者についての概要をそれぞれ書け。

(2) 「A 表現 (2) 漢字の書」の「知識及び技能」の習得をめざす授業において、導入で図版A～Cの三作品を鑑賞する際、生徒が、用筆・運筆、字形の特徴についての理解を深めることができるよう、類似点、相違点を示しながら説明せよ。(箇条書き可)

(3) (2)の学習の後、生徒の「思考力、判断力、表現力等」の育成を図ることを目標に、生徒自らが図版A～Cの三作品を鑑賞するときの学習活動を三点書け。その際、「高等学校学習指導要領（平成30年3月告示）」、「高等学校学習指導要領（平成30年3月告示）」、「高等学校学習指導要領（平成30年3月告示）」解説 芸術（音楽 美術 工芸 書道）編 音楽編 美術編」を踏まえること。(箇条書き可)。

令和6年度大阪府公立学校教員採用選考テスト

三次選考択一問題の正答について

校種	高等学校	教科・科目	書道
----	------	-------	----

解答番号	正答番号	解答番号	正答番号	解答番号	正答番号
1	1	11	4	21	5
2	4	12	3		
3	3	13	4		
4	2	14	2		
5	3	15	2		
6	2	16	3		
7	1	17	4		
8	4	18	5		
9	5	19	4		
10	2	20	2		

受験番号

高等学校 芸術（書道） 解答用紙

（4枚のうち1）

（解答は指示がある場合以外、解答用紙に楷書で記入すること）

3

得点

(1)	①	
	②	
	③	
	④	

(2)	①	川
	②	衣
	③	左

(3)	②	作品名	高野切第三種
	①	伝承筆者名	紀貫之
		①	あした（多）つのひとりお（於）くれてなくこゑはくも（毛）の（能）うへま（万）て（豆・氏）きこえ（江）つか（可）な（那）む

(4)	②	①
作品名	閑	
真草千字文	(處) 処	
	沈	
筆者名	黙	
	寂	
	寥	
	求	
	古	
智永	尋	
	論	

高等学校 芸術（書道） 解答用紙 (4枚のうち2)

(解答は指示がある場合以外、解答用紙に楷書で記入すること)

受験番号

3

(続き)

--

(5)		
③	②	①
顔真卿の行書で、安史の乱で殺された甥の霊を祭った文の草稿である「祭姪文稿」、伯父の墓前で霊を祭った文の草稿である「祭伯(父)文稿」、右僕射に抗議した文の草稿である「争坐(座)位文稿」の三つの草稿のこと。争坐(座)位文稿は、米芾が顔真卿の第一であると讃えている。	平安時代に発達した平仮名は、一音につきいくつもの字体があり、そのために変化に富んだ仮名書道が発達した。明治三十三(一九〇〇)年の「小学校令」により、一字一音の仮名が制定された。現在一般に使われている平仮名に対して、それ以外の仮名を変体仮名と呼んでいる。	筆を持って書くときの腕の構え方。腕法には、枕腕法、提腕法、懸腕法等がある。枕腕法とは、左手を紙の上に置き、これを枕にして、右手を乗せて構える腕法のこと。提腕法は肘を机上に接して、手首は浮かせて構える腕法。懸腕法は腕も肘も机から離して宙に構える腕法。それぞれの長所短所があるので、使い分けるとよい。日下部鳴鶴が回腕法で書いた話は有名。

--

--

--

高等学校 芸術（書道） 解答用紙 (4枚のうち3)

(解答は指示がある場合以外、解答用紙に楷書で記入すること)

3	受験番号

(続き)

(6)			
図版 D	図版 C	図版 B	図版 A
馬王堆帛書	薦季直表	樂毅論	温泉銘
前漢	鍾繇	光明皇后	太宗皇帝
三国・魏	奈良	唐	唐
作品名			筆者名
時代			

(7)	
⑥	①
○	×
⑦	②
○	○
⑧	③
×	×
⑨	④
×	○
⑩	⑤
×	○

4	得点

(1)		
図版 C	図版 B	図版 A
<p>「雁塔聖教序」は褚遂良の書。玄奘法師がインドから経典を持ち帰り翻訳した業績を讃えて建てた碑。太宗と高宗がそれぞれ「聖教序」「聖教序記」を著し、建碑した。この2つの碑を合わせて「雁塔聖教序」という。長安の慈恩寺の大雁塔に安置されている。褚遂良は初唐の三大家の一人で、褚遂良の楷書法は「褚法」とよばれている。楷書「孟法師碑」の他、行書の「枯樹賦」「哀冊」など行書も有名。</p>	<p>「孔子廟堂碑」は虞世南の書。唐の太宗が文教復興のために、長安に孔子廟を再建した記念の碑。原石は焼失し、重刻の石碑が西安の碑林博物館に安置されている。虞世南は初唐の三大家の一人で、唐の太宗に仕えた。虞世南の楷書法は「虞法」とよばれ、気品と温雅な趣が感じられる。他に「積時帖」がある。</p>	<p>「九成宮醴泉銘」は欧陽詢の書。唐の太宗が九成宮に避暑したとき、清泉の湧出を発見した記念碑。魏徴の撰文。石碑は陝西省麟游県の九成宮遺址に現存する。欧陽詢は初唐の三大家の一人で、唐の太宗に重用された。欧陽詢の楷書法は「欧法」とよばれ、九成宮醴泉銘は「楷法の極則」と言われている。他に「化度寺碑」「皇甫誕碑」がある。</p>

(解答は指示がある場合以外、解答用紙に楷書で記入すること)

4

(続き)

○用筆・運筆

- ・すべて楷書体。
- ・Aの用筆は精密、結構は厳正、楷法の極則と言われている。
- ・Bの用筆はゆったりしていて品位が高い。
- ・Cの用筆は、隸、行の用筆を楷書に取り入れ、華麗で妙。細い線だが、強靱で粘りがある。
- ・磔の部分は、Aは短く力強く、Bはゆったり長く、Cはなめらか。
- ・A、Bは露鋒、Cは露鋒と蔵鋒が混在。

○字形の特徴

- ・すべて横画が右上がり。
- ・Aは背勢、Bは向勢である。
- ・A、Bは均整の取れた縦長の字形、Cは方形。
- ・三作品とも、横画が細く、縦画が太い。
- ・A、Bは文字の重心が左にあり、横画の右側が長い。

(3)

- ・美の構成要素や表現性などから作品を捉え、根拠をもって批評する。
- ・グループワークを取り入れ、芸術科書道の特質に応じた言語活動を通して、意見を伝え合う。
- ・学校図書館を活用して調べ学習を行う。
- ・コンピュータや情報通信ネットワークを活用して、調べ学習を行う。
- ・コンピュータや情報通信ネットワークを活用して、端末に画像を取り込み、拡大して鑑賞する。

